

これまでの連携指導では、ST(言語聴覚士)やPT(理学療法士)、あるいはDH(歯科衛生士)の専門家においでいただいて実施していました。今回は、本校においては初めての企画としてOT(作業療法士)の先生に連携指導を依頼することができました。

1 日時 平成28年10月27日(木)

2 指導者 OT(作業療法士): 菊野病院 A. A 先生

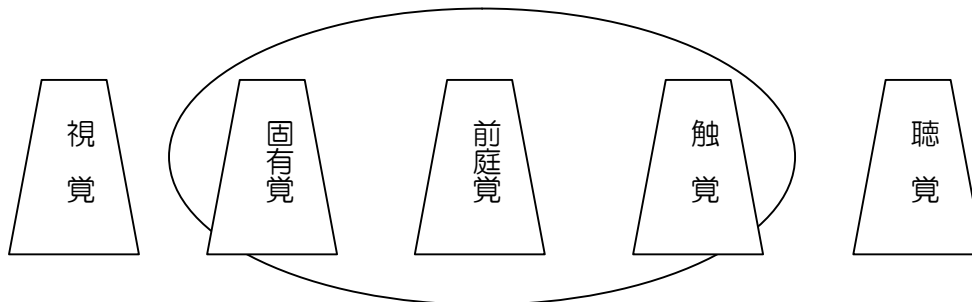
3 参加者 小学部: 3人 中学部: 1人 高等部: 1人 計5人
 担任, 自立活動専任, 生活支援センターなんさつ 職員(コーディネーター)

4 全体的なアドバイス

感覚統合の考えでは、視覚や聴覚の刺激とともに、固有覚、前庭覚、触覚の刺激を豊富にすることで脳の働きを高められるととらえている。

- ・ 固有覚=からだの様々な部分の位置や動き、力の入れ具合を感知する力
- ・ 前庭覚=回転や上下の動き、バランスを感知する力

これらのさまざまな感覚へ働き掛けて、脳の覚醒レベルを上げて集中力を高めるようにしていきたい。



手先の使い方に課題があると、教師はすぐに手先の動かし方を子どもに指導しがちである。しかし、遠回りのようでも、からだの中心部の使い方から指導し直すことが大切である。体幹の回転や反らし、腰や背中からの動きから腕や足へ。そして指先の動きへと中心部から始めて末端へ広げていくこと。

- ① からだをつくろう = からだの基礎 体幹を動かす
- ・ まるまった姿勢
 - ・ うつぶせ
 - ・ エアプレーン (仰向けになった大人の足裏に乗って飛行機の姿勢)



- ② けんこう骨のまわりをきたえる = 手の土台になる筋力をきたえる
- ・ 手押し車
 - ・ 壁押し



※ ①や②の運動により、手先の動きの前に、からだの中心の動き、つまり粗大運動を先に!

- ③ 両手の動作 = 左右の動き
- ・ 両手一緒に動かすことが先。次に、同じ動きを交互に。最後に、左右別々に。
- ④ 手のひらの動き (指先の動きの前に手のひら)
- ・ 粘土をこねる, 新聞紙を丸める動き
- ⑤ 箸やハサミの持ち方
- ・ 手首の向きはどうか(力が入り過ぎて、内側に曲げてしまっていないか)